

2024年10~12月

	三重・愛知	全国・海外
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●三重県中南勢地域が拠点の社会人サッカーチーム「FC伊勢志摩」が今季最終戦で逆転勝ち、東海社会人リーグ1部で初優勝。(10/12) ●伊勢と鳥羽を結ぶ観光道路「伊勢志摩スカイライン」(16.3km)が開通60周年。伊勢湾台風(1959年)の被災地域の観光復興として開通。(10/20) ●国内最大のスタートアップ支援拠点「ステーションAI」(名古屋市)が開業。中部地方の有力企業や大学などが「パートナー企業」として参画。(10/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ●石破茂自民党総裁が、衆参両院本会議での首相指名選挙を経て第102代内閣総理大臣に就任。自民、公明両党連立による石破内閣が発足。(10/1) ●9日衆議院が解散し、第50回衆議院選挙が15日公示。27日投開票の結果、自民と公明の与党は過半数の233議席を下回る。(10/9、27) ●ノーベル賞委員会(ノルウェー)は、日本原水爆被害者団体協議会に2024年ノーベル平和賞を授与すると発表。(10/11)
11月	<p>フォーカス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県立熊野古道センター(尾鷲市)の来館者が、2007年の開館から200万人を達成。200万人目の来館者に記念品と認定証が贈られる。(11/2) ●三重県は、南海トラフ地震等に備え、避難所情報などを入手できるスマートフォン向け防災アプリ「みえ防災ナビ」を開発し、運用を開始。(11/12) ●名古屋市長選挙が行われ、元副市長の広沢一郎氏が初当選し、15年ぶりの新市長が誕生。河村たかし前市長の市政を継承。(11/24) 	<ul style="list-style-type: none"> ●JAXAが日本の新しい基幹ロケット「H3」4号機の打ち上げに成功。高い軌道を回る静止衛星投入は初めて。(11/4) ●ユネスコの評価機関は、日本酒や本格焼酎などの「伝統的酒造り」を無形文化遺産に登録するよう勧告。12/4登録が決定。(11/5) ●米大統領選挙が行われ、共和党候補のドナルド・トランプ前大統領が民主党候補のカマラ・ハリス副大統領を破り、4年ぶりの返り咲き。(11/5)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●四日市市、東邦ガス、日鉄エンジニアリング、三十三銀行は共同出資で地域新電力会社「よっかいちクリーンエネルギー」を設立。(12/4) ●紀宝町と新宮市を結ぶ自動車専用道「新宮紀宝道路」(2.4km)が開通。災害時の交通網確保、医療機関や観光地へのアクセス向上に期待。(12/7) ●桑名市議会は市区町村で初めてカスタマーハラスメント防止条例を可決。カスハラ行為者の氏名を公表する制裁規定を全国で初めて設ける。(12/25) 	<ul style="list-style-type: none"> ●韓国の尹錫悦大統領は非常戒厳を宣言し、約6時間後に解除。14日、韓国国会は、尹大統領の2度目の弾劾訴追案を可決。(12/3) ●自民、公明、国民民主の3党は、「年収103万円の壁」に関し、国民民主が主張する178万円を目指して2025年から引き上げることで合意。(12/11) ●日産自動車と本田は、経営統合に向け協議に入ることで合意。2026年8月に持ち株会社を設立し、両社が傘下に。販売台数で世界3位。(12/23)

2025年1~3月の予定

	三重・愛知	全国・海外
1月 ~ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ●東海環状自動車道のいなべIC-大安IC間(6.6km)の開通を記念して「スカイサイクリング〜ネクストいなべ2025〜」が開催。(2/23) ●愛知県、名古屋市、中部経済連合会などで構成するスタートアップの支援組織は、スタートアップの祭典「Tech GALA Japan」を開催。(2/4~6) ●愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」が愛・地球博記念公園(長久手市)で開催。(3/25~9/25) 	<ul style="list-style-type: none"> ●阪神・淡路大震災の発生から節目の30年。兵庫県、神戸市などで記念事業が行われる予定。(1/17) ●米国トランプ次期大統領の就任式が、各国の要人を招待して行われる。就任式に外国首脳が招待されるのは異例。(1/20) ●マイナンバーカードと運転免許証を一体化する「マイナ免許証」が開始。免許更新時の講習をオンラインで受けられるなどのメリット。(3/24)

フォーカス

三重県が公式防災アプリ「みえ防災ナビ」を開発し、運用を開始

三重県は、南海トラフ地震等に備え、衛星利用測位システム(GPS)機能を活用したスマートフォン向け公式防災アプリ「みえ防災ナビ」を開発し、運用を開始しました。津波や地震の避難情報などを現在地に応じて知らせるプッシュ通知や、検索した避難場所への道順を確認することができ、日本語のほか英語や中国語など8言語に対応しています。県が防災アプリを開発するのは東海3県で初めてです。

三重県が2024年9月に行った調査によると、同年8月に初めて発表された南海トラフ地震臨時情報を受け、県内の主な宿泊施設で少なくとも約1,500件以上の宿泊キャンセルがあり、約7割の施設が「臨時情報の適切な情報発信」に課題を感じていることが判明しました。2024年元旦に発生した能登半島地震では、帰省中の人や旅行者ら土地勘がない人が多く被災したこともあり、アプリを導入することで住民以外の人でも災害時に素早くて確に避難でき、被害の軽減につながる狙いがあります。